

121 福王寺の木造毘沙門天立像



指 定 市有形文化財 昭和61年 9 月10日  
所在地 協 和  
所有者 福 王 寺

福王寺には重要文化財の阿弥陀如来坐像のほか、日光、月光の2菩薩、天部2体が数百年の星霜にたえて現存している。往時には諸仏がそれぞれに揃っていたであろうが、寛永の火災で堂塔伽藍とともに烏有に帰してしまったものと思われる。毘沙門天は上記の2天の1つで、像高128cm。重文阿弥陀如来坐像と同様に鎌倉時代の作と云われている。寄木造で体の動きは、わずかに腰をひねっているだけであるが、顔はきりりと引きしまっていて、目は大きく無限の彼方を見詰めているようである。胴は西域風の鎧を着けた獅噛の辺にポイントが置かれている。全体としての印象は特に威嚇的でなく、むしろ勇猛さを内に秘めた沈痛な面貌をしており、仏を守護する凜々しい青年の表情である。宝冠、左小手、宝塔、宝棒又は戟（戈と矛を組み合わせた形のもの）の欠落と裳の一部破損が惜まれる。